

# 大館市地域おこし協力隊(大葛)レポート

## 活動を終えるにあたり(松原隊員)

### はじめに



2010年12月20日に着任して、間もなく3年の任期が終了する松原明生さん。この3年間、大葛地域を良くしようと

いう信念のもと、地域住民の皆様と様々なことにチャレンジしてきました。ご協力くださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。その中で、思うような成果を上げることができなかったものもありますし、市の職員や同僚の協力隊員との間で、方向性の違いなどにより意見が対立するなど苦労したこともたくさんありました。ですが、協力隊制度は移住促進策として上手に活用すれば効果があると思います。受け入れ方法は、市全域で4、5人投入する方法もありますが、複数投入だとビジョンを持って役割や序列をきちんとつけておかないと収拾がつかなくなってしまうので、1地域に1人の方が良いと思います。



今後の受け入れ地域と着任する協力隊のために、私達の教訓を生かしてもらうことを願いつつ、私のこの3年間の活動の一端を紹介します。

### 着任当初



着任間もなく、地域に馴染む導入企画としてかまくらづくりをしました。大葛は準限界集落であることから、同世代以上の大人の参加をイメージしていたのですが、集まったのは子ども達とその親。なんだ、子どもも若者もいるじゃないか。その後、講演を依頼された際に「ふるさとキャリア教育」という取り組みを知り、「子どもハローワーク」を通じてイベントを行ったことから、子ども達への教育こそが長い目で見れば地域の存続に繋がるものだという思いを強くしました。今の子ども達が職能を身に付けて帰ってくるのは20年以上も先になってしまいますが、それでも大切なことです。

### 活動のステップアップ

着任後の4月から読売新聞への1年間のコラム執筆が始まり、「大葛の将来を考える会」の将来構想策定のお手伝いとして「大葛未来ヴィジョン」をまとめました。地域資源を保全して誇りを持つ集落再生という未来志向を車の両輪に交流人口拡大、雇用創出、移住者受け入れで地区人口を倍増させて公共サービスを取り戻そうというもの。大風呂敷でした。



同時に、インターネットで山菜等を販売するサイト「山里市場大葛」を開店しました。企画倒れに終わりましたが、活動のステップアップを目指し、試行錯誤を繰り返しました。また、着任してすぐにホームページを開設し、ブログやツイッターで情報を始めていたのですが、活動地域ではインターネットをしていないかたも多く「何をしているの?」と聞かれることが多かったことから、活動5カ月に紙ベースの地域誌「大葛新報」を創刊しました。



大葛新報の人気4コマ漫画「アメちゃん」